

目 次

I	はじめに	1
II	昨年度実態調査の反省と本年度の課題	2
III	本年度の研究内容	2
	1. 指導内容の作成	2
	2. 指導内容実践の試み	4
	—— 実践例 ——	
(1)	自然物どんぐり・教師作製の玩具から生まれた活動 数量形へのいどみ方を求めて 4歳児 自らの活動の場	11
(2)	比べましようといわないで比べる活動が行われる教具の工夫 「投てきコーナー」を中心として 5歳児 自らの活動の場	25
(3)	身体的運動を中心として 数量など知的活動に取り組ませる 「玉入れ」における保育過程の見直し 5歳児 学級全体の場	28
(4)	長さに対する量的な認識を全身や手足を動かす中でとらえる姿を求めて 「ひこうき飛ばし」 5歳児 学級全体の場	33
(5)	素朴な伝統遊び「砂とり」の中での量認識の姿を追う 「目で比べることから、一定の容器で比べることへ」 5歳児 自らの活動の場	35
	3. 望ましい指導のあり方を求めて	37
IV	おわりに —— 今後の課題	42